

第4回小牧市東部まちづくり審議会 議事録

1 開催日時

令和3年11月12日（金）10時00分から正午まで

2 開催場所

小牧市役所 本庁舎6階 601会議室

3 出席委員（名簿順）

増田 昇（会長）	大阪府立大学名誉教授
大塚 俊幸（職務代理）	中部大学教授
古池 嘉和	名古屋学院大学教授
横山 幸司	滋賀大学教授（リモート出席）
蛭原 義裕	一般社団法人小牧青年会議所
坪井 和巳	小牧商工会議所
秦野 利基	こまき市民活動ネットワーク
柴田 良奈	小牧市小中学校PTA連絡協議会桃ヶ丘小学校母親代表
落合 勝之	陶小学校区地域協議会
深堀 修	篠岡学区地域協議会
中川 豊	光ヶ丘小学校区地域協議会
小柳 松夫	桃ヶ丘小学校区地域協議会
村上 富士男	大城小学校区地域協議会
原 正行	公募委員
藤村 歩	公募委員
三木 孝行	公募委員
渡邊 比呂子	公募委員

4 欠席委員

和田 貴充	空き家活用株式会社代表取締役 CEO
稲垣 武磨	尾張中央農業協同組合
田中 秀治	社会福祉法人小牧市社会福祉協議会

5 オブザーバー

戸田 久嗣	愛知県県営住宅管理室
浅田 裕人	愛知県交通対策課
南木 宏和	独立行政法人都市再生機構
小塚 智也	一般財団法人桃花台センター

6 事務局

笹尾 拓也	都市政策部次長
平野 淳也	都市政策部東部まちづくり推進室長

加藤 宗礼	都市政策部東部まちづくり推進室	推進係長
横井 久志	都市政策部東部まちづくり推進室	専門員
林 亮佑	都市政策部東部まちづくり推進室	主任
桂川 隼斗	都市政策部東部まちづくり推進室	技師

7 傍聴人数 7名

8 会議内容

1 開会

あいさつ

2 議事

- (1) 東部地域のこれからの考える 東部まちづくりワークショップの報告について
- (2) 第3回審議会の振返りについて
- (3) 東部振興構想の素案について
 - ・進捗管理について
- (4) リーディングプロジェクトのイメージについて
- (5) その他

3 閉会

■議事録

【事務局】

それでは、定刻になりましたので始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、御出席をいただきましてありがとうございます。

ただいまより第4回小牧市東部まちづくり審議会を開催させていただきます。

私は、都市政策部次長の笹尾でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

まず初めに、資料の確認をさせていただきます。

本日の配付資料は、次第に記載したとおり、資料の1から5があると思います。御確認をいただきまして、不足等がございましたらお申し出いただきますようお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず初めに、増田会長より御挨拶をいただきたいと思います。

【会 長】

皆さん、おはようございます。

新型コロナ感染症の感染者も不思議なぐらい急速に減少しておりますけれども、このまま本当に終息すればいいですけど、諸外国の状況を見ていると第6波みたいなことが少し気になりますけれども、また本日の審議会もよろしくお願ひしたいと思います。

【事務局】

ありがとうございました。

ここで御報告申し上げます。

本日の出席委員数は17名でございます。したがって、小牧市東部まちづくり審議会条例第6条第2項の規定により、本会議は成立いたしております。

それでは、以後につきましては、小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第2項に基づき、会長が会議を総理することとなっておりますので、増田会長にお願いしたいと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

【会 長】

それでは座って進行させていただきます。説明のほうも座って説明いただければと思います。

今日の議事ですけれども、お手元の次第にございますように、(1)からその他まで5議事がございます。いろんな意見交換ができますよう、御協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、本日、特に前回、総合企画というのか、縦割りではないいろんな施策が統合化されたような施策の展開の重要性みたいな話がありました。それに関しましては、多分4番のリーディングプロジェクトのイメージ、この辺りで少し議論ができようかと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事の1番、東部地域のこれからを考える東部まちづくりワークショップの報告でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、議事の1の説明をさせていただきます。

東部まちづくりワークショップの報告についてさせていただきます。

お手元の資料のうち、資料2を御覧いただきたいと思っております。

資料2は、第1回目と同様、東部まちづくりワークショップニュースレターと題しまして、第2回目の概要についてまとめたところでございます。この資料に沿ってワークショップの内容を報告させていただきます。

まず、左上の1. 開催概要及び、その右隣の2. オリエンテーションですが、第1回目に引き続きまして、中部大学工学部の磯部教授に総合ファシリテーターをお願いし、全3回のうち第2回目として、去る10月23日土曜日に小牧勤労センターにて開催したところでございます。今回は「まちで学ぶ」をテーマに、当審議会での議論内容の共有とともに、東部地域で何ができるのかについて、具体的な取組のアイデアを考えていただきました。

当日は御都合により今回が初参加という方も含め、前回と同様、東部地域にお住まいの方々をはじめ、市民団体に参加されている方、事業者の方など34名の方に御参加いただきました。

参加者の内訳といたしましては、高校生・学生など10歳、20歳代の方が13名、30歳から50歳代の方が9名、60歳以上の方が12名、その他お子さんを連れての参加もあり、一段とにぎやかな雰囲気で行進できました。

次に、資料の右上、3. ゲームのカードづくりです。

今回のワークショップでは、取組のアイデアを考えてもらうためのツールといたしまして、小さな子供でも参加できる「メイキット」というカードゲームを使用しました。

右上にカードの写真がございますが、カードは、「まちの声」「まちの魅力」「まちの資源」という3種類に分かれています。「まちの声」、これが、いわゆる課題となっておりますが、1枚ずつ場に出された「まちの声」に対しまして、場に出ています「まちの魅力」や、手札の「まちの資源」を組み合わせるためのアイデアを考えるというゲームでございます。

カードに書かれた内容は、一般的にどのまちでもあるようなことが印刷されたものと、事前にアンケートでお聞きしました東部地域の中学生の声や、第1回目のワークショップで聞いた参加者の「できること」を書き込んだものを用意しており、それに加え、当日、参加者が感じている地域の魅力や課題を空白カードに書き込んでもらいました。

続きまして、資料の左下、4.「メイキット」のゲームプレイです。

左下の写真にもありますが、参加された子供さんも身を乗り出して、次々にカードを付け足しながら、大人顔負けのアイデアを連発しておりました。また、中部大学の学生さんにも、前回に引き続きまして各グループの進行役などの役割をお願いし、子供から年配の方まで、大変幅広い年齢層の参加者から多くのアイデアを引き出していただきました。最終的に7グループで75個のアイデアが出ました。

アイデアの一例を挙げますと、「農業をする人が減った農地に雑草が増えてきた」という「まちの声」を「1,000万円という資源で解決する」というお題に対しまして、「雑草を刈ってくれる人に補助金を出す」というアイデアが出ました。それに、「社会起業家」という資源を付け足してもらい、「起業家に1,000万円を元手に農業を復興させる事業をしてみよう」というアイデアが出ました。

これは目先の「雑草を刈る」というアプローチだけでなく、農業を復興させて雑草問題の解決を図ろうという課題の根本へのアプローチという発想であり、参加した職員にとっても、目からうろこが落ちるようなアイデアでございました。

最後に、資料右下の5. 今後に向けてでございますが、今回、多くのアイデアを考えてもらいました。それらを実際に具現化するために何が必要なのか。また、参加者全員が東部のまちづくりの主人公という目線で今後の取組について考えることを次回のワークショップのテーマといたしまして、あさってとなりますが、11月14日日曜日に小牧勤労センターで開催しようとしております。

東部まちづくりワークショップの報告についての説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

【会 長】

ありがとうございます。

34名の御参加の方で、前回よりもさらに活発に議論いただいたということでございます。本当にありがとうございます。

第2回目の報告をいただきましたけれども、当委員の中で小柳委員が参加されたと聞いておりますので、少し何か補足なり、感想なりがございましたら、ぜひお願いしたいと思います。

【小柳委員】

先ほど報告がありましたように、非常に活発に、しかも楽しくそれぞれの立場で参加している姿を私は見させていただきました。

ただ、私の場合は、既に東部地域のまちづくりとして、ささやかな活動をしていることから、なかなか思い切ったアイデアというところまで到達できませんでした。これは無理な話だなあとか、

あるいは、それはもうやっているよとかという見方になってしまいますので、できるだけそういう思いを外して参加させていただきましたが、かなり思い切ったアイデアが出ていると参加して感じました。

多くのアイデアが出たのですが、これらの意見をどのように生かしていけるかは、課題があるかも分かりません。しかし、第2回目のワークショップとしては、いろいろなアイデアが創出されたこと、私は評価しています。以上です。

【会 長】

分かりました。ありがとうございました。

何かこの件に関して御質問等ございますでしょうか、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

今日も多分出てくるとおもいますが、ここで生み出されたアイデアをチャレンジとして、実際に来年度でも何個が実行できればと思います。また、今週末もワークショップをいただけるということで、また次回楽しみにしております。ありがとうございました。

それでは、次第の2番、第3回審議会の振返りについてということで御報告をいただければと思います。お願いいたします。

【事務局】

それでは、議題の2でございますが、第3回審議会の振返りについて御説明をさせていただきます。

恐れ入ります。資料3を御覧いただきたいと思っております。

前回、案といたしましてお示ししましたまちの将来像、ヴィジョン、取組方針、また素案といたしまして、取組方向に対していただきました各委員の発言内容をまとめたものでございます。非常にたくさんの御意見をいただきましたので、キーワードごとに整理して記載のほうをさせていただきます。

まず高齢者、子育て世代、次世代につきましては、「取組が長続きしていくための仕組みづくりが必要」、「ある程度組織的に進めることが必要」、「高齢者は福祉の対象というよりは、高齢者の知恵を発揮して地域の中で活かしてもらおうという視点が重要」、「シニア世代が活躍でき、生きがいにつながる仕組みづくりが必要」、「多様な働き方ができる空間を既存のインフラを活かしてつくれるとよい」、「東部の図書室も勉強ができるスペースを増やしてほしい」、「中高生などからやりたいことを抽出して定期的な実施できる仕組みをつくれればよい」、地元農産物に絡めての御発言でしたが、「地元で愛着を持った教育を学校だけでなく、地域に広げて実施できるとおもしろい」という意見がございました。

続きまして、都市インフラの部分では、「東部一体としてどうしていくかを考え、ソフトだけでなく、ハード面でも道路整備等を進める必要がある」という御意見です。

続きまして、農業・商工業では、「農家を支援するためJAがモモサポーター制度を実施している」、「農業者が活気づくような取組、大規模な農業ができる仕組みの後押しができる」という御発言がありました。

地域資源では、「魅力の一つである自然の保全という視点が必要」。

住まいでは、「中部大学の学生と連携して空き家をリノベーションし、そこが学生のシェアハウ

スとなるような取組ができればおもしろい」。

基盤におきましては、「持続可能な運営のため、ワンインワンアウトのような整理、また公共私
の役割分担を考える必要がある」という御意見がございました。

続きまして、資料の裏面になりますが、全体にわたることにつきまして、「東部地域の遊休資源
の組み合わせ方を考えるとがらっと見方が変わり、既存の取組やストックつなげるだけでいろいろ
と解決できる気がするので、そういう視点でもっとわくわくする計画にしたい」、「取組を楽しんで
進めることにより活動者が増えてくるような形への変化が必要で、義務感だけでは長続きしない」
という意見のほか、「若い世代をいかに誘致するかが最も大事なこと」、また、「多様なライフスタ
イルが実現できるような地域でありたい」、「小牧市自信がチャレンジしてもらいたい」という御意
見もございました。

その他といたしまして、「アクションプランが極めて大事」という意見に加えまして、「一つの取
組がいくつもの取組の方向に関係してくるため、具体的に考えていくと一石二鳥、一石三鳥な取組
が見えてくる」との発言もございましたので、増田会長からは、「次回は重点プロジェクトや具現
化できるプロジェクトみたいな形で考えていきたい」という締めくくりをいただきました。

以上で第3回審議会の振返りについての説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

【会 長】

前日も非常に多くの御意見をいただきまして、ありがとうございます。

これ、少し頭の片隅で思い出していただきながら次の議題ですね。本編、東部振興構想の素案と
いう形で一応全体像が取りまとめられておりますので、それに基づいて御報告いただいてから前回
の議論も踏まえて意見交換をしたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、議事3の東部振興構想の素案について、その中でも特に進捗管理は、プラスアルファ
されたということでございます。説明のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

【事務局】

それでは、議事3の東部振興構想の素案についてと進捗管理についてを御説明させていただきます。

恐れ入ります。資料の4. 東部振興構想（素案）のうち、43、44ページを御覧いただきたいと思
ひます。

こちら、構想の体系のまとめといたしまして、これまでもお示ししてまいりましたが、東部振興
構想の体系図を載せております。先ほどの振返りもございましたが、これまでの審議会を通じまし
てこの体系図になります。まちの将来像、ヴィジョン、取組方針、取組の方向について御議論いた
だきました。いただきました意見を反映させながら修正した形が、今御覧になっているものとなっ
ております。

このように東部振興構想の核となる部分につきましては、委員の皆様にご意見をいただき、ほぼ
固まってきたと思われまますので、ここで一旦、構想全体の素案を提示させていただきます、御意
見をいただければと考えております。

なお、ここにあります各項目のうち、事務局におきまして整理し直した結果といたしまして、ま
ちの将来像については、東部地域が目指すものということを示すという意味で、「豊かな自然
と快適な住環境の中で」という言葉を付け加えております。

また、取組方針のうち、ヴィジョンの2の新規ビジネスの部分でございますが、「新しいビジネスモデルの構築」といたしておりましたが、シンプルに表現するため、「新しいビジネスの創出」に修正をさせていただきました。

もう一点、先ほど振返りの中でもありましたが、地域資源の部分で、「魅力の一つである自然の保全という視点が必要」という御意見をいただきましたので、ヴィジョン3の地域資源の部分について、取組方針に「保全」という言葉を付け加え、「地域資源の保全、魅力向上及び発信の強化」と変更させていただきました。

続いて、同じ資料4の全体構想（素案）のうち、46、47ページをお願いいたします。

ここにあります計画管理の流れ、指標の部分につきましては、まだ意見を頂戴していませんので、資料に沿って御説明のほうをさせていただきます。

まず46ページの上段、計画管理の流れでございます。

東部振興構想は10年の計画期間としていますので、折り返し地点である5年目の地点で効果検証を行い、計画の見直しを行う予定でございます。効果検証の方法といたしましては、まちの状態を見る指標といたしましてK P I（重要業績評価指標）を置き、さらに参考指標をヴィジョンごとに置きまして、それらを確認・分析することで、その後の進むべき方向性を検証しようとするものがございます。

また、後ほど次の議題にて説明をいたしますが、東部振興構想はまちづくりの指針に当たるものであり、それだけでは実効性がないため、実際に実施していく取組が重要となってきます。そこで、東部地域で行われる取組を当審議会での意見も伺いながら、アクションプランという形で市が取りまとめる予定としております。ただし、これにつきましては、毎年状況を確認しながら機動的に更新していけるよう、振興構想とは別立てといたしまして作成してまいります。

このアクションプランに掲載する各種取組の内容や、活動状況を把握しチェックしていくことにより、直近ごとの状況をチェックしていく予定でございます。

次に、46ページ下段の指標でございます。

10年後の東部地区を見据え、構想全体の成果指標といたしまして、先ほども説明しましたがK P Iを設定します。設定する指標につきましては、東部地域の生産年齢人口割合、15歳から64歳の人口割合といたしました。

これは審議会での議論にもありましたが、少子高齢化が急速に進む現状で、発生する様々な課題に対しながら、東部地域が将来に向けて持続的に発展していくためには、若い世代の呼び込みということが欠かせないことから、そこを明確にする意味でも、年齢対象を絞ったこの指標としたものがございます。

中間年度の目標値及び計画満了時の目標値につきましては、12ページの人口推計を参考に検討を進めておりますが、事務局案として固め切れていないという状況でございます。そのため、現在は空欄とさせていただいております。次回の審議会までには、こちら、御提示できるようにさせていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。今回は東部振興構想のK P Iといたしまして、生産年齢人口の割合が妥当かどうかという御意見をいただければと考えております。

続きまして、47ページをお願いいたします。

目標を置く指標といたしましては、生産年齢人口の割合のみでございましたが、効果検証の際、それだけではまちの状態が把握しにくいということから、K P Iの実現に向け、重視するものとしてヴィジョンごとに参考指標を設定しました。

指標を見る基準といたしましては、基準年における基準値から見て目指す方向を矢印で示していますので、都度、各項目が目指す方向と同じ数値変化をしているかを確認することとなります。

一つずつ各参考指標を見てまいりますと、ヴィジョン1の高齢者については、「生きがいを持って暮らしている65歳以上の住民の割合」、子育て世代については、「安心して子育てができると思う20歳代から40歳代の割合」、それから、次世代につきましては、「次世代が参加するまちづくりのプロジェクト数」、交流については、「桃花台まつりの参加者数」、都市インフラについては、「週1回以上公共交通機関を利用している地域住民の割合」としております。

ヴィジョン2については、農業・商工業が、「農業サポーター制度登録者数」、新規ビジネスが、「東部地域における起業・創業に対する補助件数」です。

ヴィジョン3については、地域資源が、「市ホームページ内にある東部まちづくりニュースのページの年間アクセス数」、住まいが、「戸建て住宅の空き家数」、それから住民活動が、「区や市民活動団体などが開催する活動に過去1年間で1回以上参加したことがある地域住民の割合」としております。

進捗管理についての説明は以上でございます。

続きまして、東部振興構想全体の素案についてでございます。

資料4全般になりますが、御覧いただいているかと思いますが、基本的に主要な構成といたしましては、当審議会でお示しして御議論いただいていた資料が、若干の形を変えている場合もございますが、掲載されております。

そのほか、審議会にお示ししていないものといたしましては、4ページを御覧ください。

こちら、上から5のSDGsとの関連性、6のダイバーシティの必要性、7.ゼロカーボンシティの実現とあります。それぞれ直近のトレンドとして意識することが求められている事項ですので、掲載をさせていただいております。

関連いたしまして、18、19ページを御覧ください。

各ヴィジョンの説明でございますが、ここに、関連するSDGsのアイコンを載せております。以上で議題3の説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

【会 長】

ありがとうございました。

ただいま東部振興構想の素案の中で、特に前回の修正事項と進捗管理を説明いただくと同時に、構想の全体像についても報告をいただきました。

どこからでも結構ですので、これに対して御意見、あるいは御質問等ございましたら、いかがでしょうか。

中川委員、どうぞ。

【中川委員】

今、説明のございました17ページに書いてございますまちづくり5原則に一体性という部分がございます。ここで私が少し気になる部分ですが、東部地域一体でのまちづくり、もちろんこの中には桃花台のニュータウン、プラス周辺の既存集落、従来からありますまちをプラスしていただいて大変ありがたいんですが、ここで一つ、企業が入っていないのはどうかという気がいたします。

やはり企業の存在というのは、非常にまちの存続、将来性については大きなポイントになると思

いますので、企業さんがどのような考えでここに移転してきたのか、また、今、何を望んでいるのか、どんな問題点があるのか、そういったこともやっぱり掌握していく必要があるんじゃないか。できれば毎回は難しいかも分かりませんが、企業代表の方の御意見を求める場所になってもいいんじゃないかなというふうな気がいたしました。以上でございます。

【会 長】

ありがとうございます。事務局、いかがでしょう。

多分、今までの議論からいくと、この「既存集落などの複数あるコミュニティ」の「など」に隠れてしまっているんだと思うのですが、いかがでしょうか。

【事務局】

はい。会長が言われるとおりで、審議会の前の戦略会議のところでも3つのコミュニティの連携というところで、桃花台ニュータウン、既存集落、企業の連携が大切という議論もありました。少し分かりづらい表現となっておりますが、企業については「など」に含めているところです。

【会 長】

ひょっとしたら、「など」の中に閉じ込めずにきっちりと表に出したほうがいいかもしれないですね、御指摘いただいたように。いかがでしょうか。

【事務局】

一度検討させていただきます。

【会 長】

はい、分かりました。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

秦野委員、どうぞ。

【秦野委員】

関連になるかと思えますけれども、まちの将来像に「豊かな自然と快適な住環境の中で」という言葉が加わったのは、非常に大きな進歩だったのかなという気がします。「人がつながり、支え合い、チャレンジし続けるまち」だけでは何のこともさっぱり分からないということで、東部の特徴である「豊かな自然、快適な住環境」というのが入ったのは非常に良いんですけど、先ほどの御意見でもありましたが、やはり企業とか産業が非常に大きな役割を果たすんじゃないのかなというふうに思いますので、もし可能なら「豊かな自然と産業、快適な住環境の中で」という一つ表に出てくると、よりつながりやすいんじゃないのかなというふうな気がしましたので、意見として出しておきたいと思います。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。

同様にこのまちの将来像の辺りで、今回、新たに東部地域を表すという形で「豊かな自然と快適

な住環境の中で」というのを加筆いただいた、この辺りについて何かプラス御意見がございますでしょうか、いかがでしょうか。

落合委員。

【落合委員】

「豊かな自然」ということですが、これは「緑豊かな」と書いてありますけれども、豊かな自然というと、やはり山は清く、水は清く山へ戻るというようなことで、とにかく水に対して、桃花台の地域は多分水害はないだろうというふうに思ってみえるし、地区のほうでもそんなに大したことないという認識だと思いますが、桃花台の地区、330ヘクタールですけれども、この地域に、これは大体上末、下末、高根を含めたぐらいの大きさですけれども、この地域に川が1本もない。新しく膨大な面積、今、丘陵地ですけれども、そこを造成して、普通の考えでいきますと川とか沢とか、そういうものを優先して造っておいて、道路とか宅地を考えるんですけれども、愛知県の新住宅市街地開発事業でやられた関係ですし、緑道や高速道路ができたことも関わっていますが、大きな雨が来たときはどこかへ水が集中する。ニュータウンの水自体が全て道路下にいれられた管渠で周辺の川に流下しているわけですね。

そういうことからいくと、長年の中で、いろいろな水みちができた道路が陥没したり、想定するに非常に難しい状況がありますので、やっぱり水というものに対して何らかどこかに、大切にするとか、危機感を持たせるとかというようなことでないと。それと、高速道路が多い関係で市町村道が道路をまたいでいるわけですね。跨道橋もですし、それから新交通の高架もですけれども、非常に危険な感じがするわけですね。

環境センターの辺の裏のほうの山も崩れやすい山ですし、そういう水に対してどうかということ、この東部まちづくりをやっていく中で何も触れていないことですので、「豊かな自然」と言っても、相当いろいろと考えておかないと、想定外の雨が降った場合、昔の東海豪雨のときでも、50ミリぐらいの雨が2時間ぐらい重なって降っただけで土砂崩れがあったり死亡事故がありましたので、とにかく何かまちづくりの中に管理をどういうふうにしていくだとか、水に対する考えはどうだとか、危機感を植え付けたいと、以上ですけれども。

【会 長】

なるほど、ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか、この辺りに関して。よろしいでしょうか。

秦野委員の横ですね。坪井委員どうぞ。

【坪井委員】

先ほど落合委員がおっしゃったように、小牧で桃花台の東のほうだとか、そこはちょっと土地が低いものですから結構水が出やすい。それから、昔、大山地区で山が崩れたとかというような事例もございまして、小牧市でもBCPというのに取り組んでいらっしゃるんですが、そういうものも、やはり一つの観点というか、入れていただきたいなというふうに思っております。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょう。

ちょっとこの辺りで事務局のほうから。1つは、やはり事業者とか、産業というのは大事なので、表に見えるようにしたらどうでしょうかという御提案。

それともう一つは、結構、降雨災害というか、自然災害が多発化している中で水の処理みたいなやつをどう考えるのかという御意見が出ていますけれども、何か御答弁ございますでしょうか、いかがでしょう。

【事務局】

先ほどの1点目の産業については、一度検討のほうをさせていただきたいと思います。

それから、先ほどの自然災害等につきましては、都市インフラのところになるのか、地域資源のところで少し書き込みができるのか、そちらのほうも、また検討させていただこうかと思っております。

【会 長】

そうですね。

今、いろんな整備事業の中でグリーンインフラということが言われておりまして、極力降った雨をダイレクトに下水道に放り込むんじゃなしに、少し地下浸透をさせる量が増えるとか、一時処理のできるような雨庭みたいな政策が進んでおります。

したがって、多分、取組の方向の中で言うと安全・安心な住環境の定義という、この辺りの中で、今頻発する自然災害についてという辺りは、ひょっとしたら入れていったほうがいいかもしれないですね。よろしいでしょうかね。

ほか、いかがでしょう。このページに限らず構想の体系の修正いただいたところ、あるいは今日、新たにお示しいただきました進捗管理、それからK P I、それに向けた参考指標とか、その辺りについても御意見をいただければと思いますけれども、いかがでしょうかね。

【横山委員】

会長、よろしいでしょうか。

横山です。すみません、Z o o mで失礼します。

ちょっとお尋ねしたいんですが、事務局に。小牧市さんのほうでは、住生活基本計画というのはおつくりになられていませんかでしょうか。

【会 長】

事務局、いかがでしょうか。

【事務局】

私が把握している中では、作成はしてないと思っております。

【会 長】

なるほど。作成されてないということですが、横山先生、どうでしょうか。

【横山委員】

たまたま昨日、別の滋賀県内の自治体で住生活基本計画をおつくりになられている自治体の委員を仰せつかったものですから、小牧市さんは策定されているのではないかと思ってお尋ねしただけです。義務じゃないということでしょうね。

【会 長】

そうですね。

【横山委員】

あと別の委員の方もおっしゃっていたように、やはり防災計画ですね。ハザードマップですとか、そうした観点は、非常に大事ななと思います。

それから、あともう一点だけすみません。

企業との連携等も、後ほど柱の中にも産学官の連携というようなところが出てきますけれども、もう少し何でしょうか、産学官と言っちゃうと固いんですが、例えばこれもあまり小牧市さんには該当しないのかもしれませんが、全国的には郵便局さんとか、そうした既存の民ですけれども極めて公共的な団体、組織との連携ということも進んでいるんです。そうした公共的な団体でありながら民の団体というような、そういったところも連携するような先があれば、計画に盛り込んでいただくとうろしいんじゃないかなというふうに思いました。

【会 長】

はい、ありがとうございます。

多分、今の話で言うと、この20ページのプラットフォームで人と人がつながる仕組みで産学官民という形を書かれていて、文章の中には地域住民をはじめ、事業者、教育機関、行政などというふうに書かれておりますので、その辺りどういう表現をしていくかというのは、事務局のほうで少し御検討いただければというふうに思いますけれども。

ほか、いかがでしょうか。

多分、プラットフォームでいろんなステークホルダーを全部書いていくと複雑な図になり過ぎますので、どの辺りで主体みたいなやつが見えてくるかというのは少し考えていただければいいんだろうと思いますけれども。

横山委員、よろしいでしょうか、そういうことで。

【横山委員】

はい、結構です。

【会 長】

他はいかがでしょうか。

大体よろしいでしょうか。

あと、それと、もし事務局のほうから投げかけてもらったK P Iというのは、生産年齢人口、やはり高齢化、あるいは少子化が進行していく中で、やはり15歳から64歳という生産年齢人口みたいなものをK P Iにしたかどうかという御提案をいただいておりますが、これに対して何か御意見ござ

いますでしょうか、いかがでしょう。転出入を見ても、20代あるいは30代前半というのが非常に多く転出しているという人口動態があって、やはりその辺りの転出を食い止める、あるいは新しい世代が入るよとということでの生産年齢人口割合を表示いただいておりますけれども、いかがでしょうかね、特に問題ないでしょうか。

ちょっとお聞きしたいです。このアクションプランは委員会のマターではないと思うのですが、今年度の審議会の中で、アクションプランの骨格みたいなやつは御提示いただく機会ってあるんでしょうかね。その辺いかがですかね、ちょっと教えていただければと思います。

【事務局】

アクションプランにつきましては既存の事業等ありまして、予算が絡んでくる部分がありますので、年度内のタイミングで出せるか年度明けかという形になるかと思いますが、そちらのほうは今一度、整理して、御提示したいと考えております。

【会 長】

なるほど、分かりました。一度ここで何かの決議をするという話じゃなしに、具体的なアクションプランを提示いただいて、少し意見交換の機会があればありがたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

村上委員、どうぞ。

【村上委員】

46ページの指標でが、生産年齢人口の割合で目標達成を確認していくということですが、どのようなインパクトがあるアクションプランが出るのか分かりませんが、普通に考えると減っていくと思われまますので達成は永久に無理じゃないかなと思います。これは指標として使えないのではないかという気がします。

【会 長】

はい、分かりました。

【村上委員】

それと、もう一点。

47ページ交流のところでは桃花台まつりの参加者数を指標にするのは適切じゃないと思います。もっとほかに良い指標があるのではないかと思います。

【会 長】

かなり人口減少の中で、あるいは若い人の転出の中で達成できる目標を実際に掲げることができるのかどうかという御質問ですけど、いかがでしょうか、事務局。

【事務局】

おっしゃられるとおり今後若い世代が減っていくということになりますが、推計を出しておりま

すので、それより少しでも上に上昇できるようなことに向けて取り組んでいきたいということで、具体的な数字のほうが今出せておりませんが、そういったことを目標にしていければなどは考えております。以上です。

【会 長】

横山委員が手を挙げていますので御発言いただければ。

【横山委員】

会長、すみません、私も今、村上委員のおっしゃったことに賛同するんですけども、もう一点、気になりました。47ページのヴィジョン3にあります「空き家数」です。空き家を減らしていこうという指標になっていますが、空き家は絶対減っていかないと思います。したがって、空き家は増えていくが、それに対して何らかの措置をしたということ、それを利用されるのが一番良いのですが、最悪処分していくということも必要だと思います。

そのように、これから右肩上がりが増えていくということはやっぱり現実的ではなくて、それはそれで現実として受け止めて、それに対してどう対処していったかということの割合を考えたほうがいいんじゃないかと思います。

【会 長】

ありがとうございます。

今の御意見に対して何か事務局ございますでしょうか。現実としていろんな総合計画を策定する際も、これまでは人口減少を容認するようなプランって少なかったですけど、この頃いろんなところの総合計画をお手伝いしていると、やはり人口減少を容認した中でどういう施策展開をしていくんですかという方向で議論が進んでいるところが多々あります。その辺なんかも含めて今の御指摘いかがでしょうか。

【事務局】

特に47ページは参考指標という形で取り上げさせていただきましたが、こちらは人口減少等を含めまして考えていければなどは思っております。先ほど出ました空き家対策も兼務で所管する部署ではございますので、そちらのほうを踏まえまして、いま一度検討のほうをさせていただければと思います。

【会 長】

ありがとうございます。

あとは、交流というところで桃花台まつりの参加者数で見ているのかどうかという御指摘もございましたけど、その辺何か御意見ございますでしょうか、いかがでしょう。

小柳委員、どうぞ。

【小柳委員】

桃花台まつりの今お話が出ましたけれども、桃花台まつりがコロナの関係で2年中止をしています。そんな関係で、かなりメンタル的なものがありまして、恐らく従来の方向よりもそれに代わる

ものを検討する時期に来ているというふうに私自身は思います。

立ち上げのときから責任者をやっています。コロナ前の3年前も責任者をやっていたけど、それから2年、今、責任者を交代していただきましたけど、そろそろ見直しをせざるを得ないのではないかと方向です。

先ほど話があったように、指標については、プラットフォームなどで交流回数、あるいは地域の魅力に関連したものにした方がよいのではないかと私自身は思っています。

それから具体的にここがどうということではありませんけれども、私は桃花台の中に住んでおりますけれども、篠岡地区、東部地域にはたくさんの桃とブドウということで特産物があります。今日、稲垣さんがお見えになっていませんけれども、実はブドウの農家さんも、実は7軒しかもうなくなっています。私もブドウを買って地方に送りますが、買う際は、ブドウ農家にいいときに送ってくださいとお願いしています。そういう7軒の家族の方々と地域の人達との交流が必要ではないかと思っています。したがって、農家を育てる、先ほどサポーターが24名とありましたけれども、こういうブドウなんかの生産者と消費者が、いろいろ話をして、希望を持ってやってもらうというような交流も必要かなと思っています。桃の関係は、まだ農家が多いので、かなり様々な形で努力されていますが、ブドウの農家はこういう形で出させていただいて、私どもの手元に来ています。

それから空き家対策の話なんですけれども、ある業者さんの年間の発表では、その担当者は小牧市全体で42の売却があり、そのうち、桃花台は14件、要するに3分の1が実は空き家対策で売買をしたという実績が載っています。どの地域が多いということもここに書いてありますので、困ったとき何とかありますので、3分の1は桃花台の中ではそういう空き家があり、それを販売する、あるいは空き家をそのままにしておくという、両面の状況があるのが実態です。その辺は今後、地元の市民団体の桃花台を考える会の方々も空き家の予防活動を一生懸命やっています。そのような活動も大切なので、引き続き行政とも連携して進めていただきたいと思います。

また、多文化共生の関係ですが、私が先日、9月7日予定でしたけれどもコロナでできませんでした。それで、10月22日に地元の中学校の外国籍の生徒を集めて座談会をしました。それで、その答えが非常に私感激したんですけれども、桃花台に住んでどうだというような話をしたんですけれども、すばらしいと、人が優しいと、挨拶もしっかりしてみえと、こういう外国籍の子供がそう言うてくれました。その他いろいろ注文もありましたので、これは聞きっ放しではいけないので、今、フィードバックするように準備をしておるんです。

もう一つは、一番は子供たちがそんなことを考えているかということには分かりました。我々の地域は高齢者が多いです。

座談会のなかで中学生から、「そんな地域だからこそ、高齢者のみなさんのお手伝いすることができます。」というような意見がありました。「重たい荷物を持っているときに手助けできます。」そういう子供が出てくるんです。大変うれしいことです。

これは外国籍の子供といっても、これは放置をするわけにいかないということで、これも延長線上で、また小学校にも延長していこうと思っていますが、そのときに御父兄には、保護者にもメッセージをポルトガル語とスペイン語で要約してまいりまして、家庭に持って行っていただくようにしました。子供たちに聞いてみると非常に喜んだということですので、多文化共生の中の一つの方向づけとして私の周りでこれを進めていきたいというように感じます。少し長くなりました。ごめんなさい。

【会 長】

ありがとうございます。

事務局いかがでしょうかね、一番最後からいきますと、アクションプランではなくて、背景の中に世代・国籍を超えた住民交流の促進、その下に外国人・日本人住民の交流機会の創設というようなことが書かれていますから、その今の御意見を参考にいただきながらアクションプランのレベルで何か書き込んでいくのか、少しこの辺りに関係する御発言をいただいたということだと思います。

もう一点は空き家の話ですけど、絶対数を書くのか、今、小柳委員から御説明あったように、空き家が流通した数を増やしていくという目標値にするほうがひよっとしたらいいのかもしれないと。うまく流通させるということが非常に重要で、絶対数は、それは減らしていけばいいんですけど、むしろ流通する数を増やしていきますみたいな、そんな指標のほうがひよっとしたらいいかもしれません。これも御検討いただければ。

【事務局】

はい。

【会 長】

あとは、桃花台まつりの参加者数がいいのか、もう少し交流ということを見ると、いろんな多様な主体が入った活動みたいな数がどう増えていくのかみたいなほうがひよっとしたらいいかもしれないとか、少し曲がり角にお祭りが来ているということですので、その辺も考慮して少し事務局のほうで御検討いただければと思いますけれども、よろしいでしょうかね。

【事務局】

今、いろいろ御意見いただきましたが、一度持ち帰って検討のほうをさせていただきたいと思います。よろしくお祈いします。

【会 長】

ありがとうございます。

大体よろしいでしょうか、この素案に関しましては。

次回、もう一度、この今日の意見を受けて最終一歩手前ぐらいの案が出てくると思いますので、よろしくお祈いしたいと思います。

それでは、今日はもう一点、前回かなり総合的施策みたいな必要性とか、具体的に目に見える施策の必要性みたいな御意見もたくさんいただきまして、今日はその一つの答えとして、リーディングプロジェクトのイメージについてというところを御検討いただいておりますので、そこを少しじっくり御報告いただいて意見交換ができればと思いますので、よろしくお祈いしたいと思います。

【事務局】

それでは、議事の4. リーディングプロジェクトのイメージについてということで、こちらのほうを御説明させていただきます。

すみませんが、資料の5を御覧いただきたいと思います。

こちらは先回の審議会におきまして、東部振興構想の取組方針・取組方向が非常に多いので、重

点事業のような具体的なプロジェクトを並べてみて構想と取組とのつながりを見てみたいというお話がありましたので、具体的な取組として現在検討中のものをお出ししているものでございます。

では、資料に沿って説明のほうをさせていただきますが、まずはリーディングプロジェクトやアクションプランといった単語が並んでおりまして、それぞれの位置づけが分かりにくいと思いますので、まずそれについて御説明したいと思います。

資料5のうちの3ページのほうを御覧いただきたいと思います。

ここにアクションプランとリーディングプロジェクトはということを書かせていただいておりますが、まずページ右側の真ん中の部分になりますが、アクションプランとは、東部振興構想に基づき、今後3か年の取組を毎年まとめるものということで、次にリーディングプロジェクトはということ、東部地域で関係者とともに新たに実施する取組のほか、これまでの取組を組み合わせ、プロジェクトしたものとしております。

このページにも記載しておりますが、これらのものをまとめたり、プロジェクト化する目的は、見える化して発信することによりまして多くの方に関心を持ってもらうためのものでございます。特にリーディングプロジェクトにつきましては、その名のとおり、先導的にまず取り組んでいきたいという内容をプロジェクトとして特出したものとなっておりますので、たくさんの方々を知ってもらい、参加していただくことを期待しておるものでございます。

続きまして、資料の4ページを御覧ください。

ここでは東部振興構想、アクションプラン、リーディングプロジェクトの関係についてまとめております。

ページ左側の図に表しているように、東部振興構想というのは、まちづくりの方向性を示しました指針に当たるものでございます。そして、構想に示しますまちの将来像を実現するために具体的な取組が必要になるわけでございますが、東部地域で行われるまちづくりの取組全般を取りまとめたものが図の矢印の先にあるアクションプランとなります。

アクションプランの内訳といたしましては、図の四角の枠の中でございますが、これまでに既に実施されております実施中の取組があるほか、今回資料でイメージをお見せしておりますが、リーディングプロジェクト、またリーディングプロジェクトにはないけれども、地域住民の方々などが新たに始められる取組などとして、その他新たな取組がございます。これらを市が把握できる範囲になりますが、東部地域ではこんな取組が行われているという発信のために取りまとめたものがアクションプランとする予定でございます。

次に、資料の5ページを御覧ください。

ここからはリーディングプロジェクトについて記載しておりますので、順番に説明のほうをさせていただきます。

プロジェクトは全部で4つを掲げております。

1つ目は「人と人がつながるプロジェクト」ということで、まちづくりの基盤となるプラットフォームづくりのキックオフといたしまして、今年度も開催しております東部まちづくりワークショップを発展させまして、取組実施を想定いたしましたワークショップを開催するものでございます。

2つ目は、「まずはやってみようプロジェクト」でございます。1つ目のプロジェクトとつながりますが、「人と人がつながるプロジェクト」では、ワークショップへの参加を通じましてプラットフォームへの参加・発展ということを意識しておりますが、こちらの「まずはやってみようプロジェクト」では、1で考えました取組を実際にやってみようという主眼としたプロジェクトとしてお

ります。

次に、3つ目でございますが、「桃でつながるプロジェクト」でございます。先回の審議会で、桃農家の支援のため、JA尾張中央におきまして桃づくりを学んでもらうモモサポーター養成講座の実施と、その卒業生が登録いたしまして桃農家をサポートするモモサポーター制度が行われていることが紹介されました。やはり東部地域では、代表いたします産品といたしまして桃というのがありますので、東部のまちづくりには欠かせない要素であろうと考えますので、桃をキーといたしまして地域がつながるイメージをプロジェクトとしております。

具体的には、既に実施されているモモサポーター養成講座とモモサポーター制度による桃生産の担い手づくりを促進すること、またその取組の広がりとして、桃を使用しまして商品開発などチャレンジするというものでございます。

最後に4つ目でございますが、「しのおかPRプロジェクト」でございます。東部地域の大部分は、小牧市の前身の一つであります旧篠岡村のエリアになります。現在でも篠岡の名称につきましては、小・中学校の学校名や地区名などにも使われておりまして、東部地域の代名詞といたしまして、固有の名称を冠にした魅力を発信のプロジェクトとしております。

具体的には、東部地域で進められるまちづくりが多く共感を得て活動の輪が拡大・継続していくように、まちづくり活動の記録を行うとともに、SNS等を開設いたしまして地域内外に広く発信していくものでございます。

以上、4つのプロジェクトについては、その後のページに詳細を載せておりますので、御参照いただければと思っております。

では、ページ数を振っておりませんが、資料5の最後のページを御覧いただきたいと思っております。

こちらは、東部振興構想と各リーディングプロジェクトの関係図となっております。この図の右端の部分は、元々取組の方向（内容）が書かれていましたところを、そこを少し省略させていただきまして、今御紹介しました具体的なプロジェクトをこちらのほうに位置づけまして、取組の方針と各取組がどのようにつながるかを線でつないだものとなっております。

それぞれつながる取組方針に近い箇所にプロジェクトを置いておりますので、上から順に1から並んでいるということとはなっておりませんが、御覧のようなイメージとなっております。

また、この線の太さに差をつけておりますが、太い線ほど関係性が強いという形にしております。上から順に見ますと、「桃でつながるプロジェクト」については取組方針2-①の農業・商工業と関連が深く、そのほか3-①の地域資源や1-①から1-④までにも関連があることが分かります。

次に、その下の「しのおかPRプロジェクト」につきましては、3-①の地域資源と3-③の住民活動との関連が深く、その他、各取組方針に紐づいていることが分かります。

その下、「人と人がつながるプロジェクト」につきましては、基盤の方向①との関係が深く、一番下の「まずはやってみようプロジェクト」につきましては、基盤の方向①と方向②と深くつながる取組であるということが分かります。

議題4のリーディングプロジェクトのイメージについての説明は以上とさせていただきます。よろしく願いいたします。

【会長】 ありがとうございます。

ただいま資料5に基づきましてリーディングプロジェクトのイメージという形で御報告をいただきました。どこからでも結構ですので、これに関していろんな御意見、あるいはこれをどう実現

していくのかといったアイデアも含めて御意見をいただければと思います。

古池先生、どうぞ。

【古池委員】

前回、ちょっとわくわくしていないという話をしましたけど、大分わくわくするようになってきました。というのは、このプロジェクトは、特に1とか2とかそうなんですけど、これ自体がプロジェクトというより、プロジェクトを誘発する制度とか基盤を整えて、これを基にどういうふうな、本当に具体的なプロジェクトが出てくるのかという意味で非常にわくわくするという感じになってきたと思います。

その上で一つだけちょっと御検討いただきたいのは、プロジェクト3の桃でつながるプロジェクトなんですけど、これは非常にいいことが書いてあるんですけど、生産ベースのつながりが非常に意識されて、これはこれですごく大事なんですけど、ここにプラスして市民ベースでつながるところがあると僕自身はいいなと思っていて、具体的に言うと、農業公園が孤立化しないためにも、よくあるのは例えばオーナー制度みたいなので、自分の木がそこで植わっていて委託管理をプロにしてもらわなければならないんですけど、自分の木があって気になって見に行くとか、あるいは収穫するとか、そういう桃というものと市民と住民とつながっていくかという、そういうところが何か工夫をぜひしていただけると、もっと、要は地域に支えられている公園という形にするための工夫ですね、オーナー制度がいいか分かりませんが、そこを一つ御検討いただければと思います。

もう一点、先般、小柳委員がおっしゃっておられた学校教育と桃とつながっているという話があったので、ぜひこの農業公園辺りは、外に向けた場所という視点も大事なんですけど、生徒・児童の教育に農業公園という位置づけがあると重層的になってくるので、そういう意味でいうと、この桃でつながるプロジェクトは非常にいいプロジェクトになってくると思います。このプロジェクトで人の輪が広がってまちづくりという意味でいくと、生産ベースのところから市民とつながっていくようなことがここに加わっていくと、これはすごくわくわくするなあという感じになるんじゃないかと思いましたので、ちょっと御検討いただければと思います。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。

そうしたら、ほかいかがでしょうか。

蛭原委員、どうぞ。

【蛭原委員】

ありがとうございます。

1点ちょっと質問をまずさせていただきたいんですけど、今出た桃でつながるプロジェクトというのは、今こちらで具体的に動いていることとか何かあれば教えていただきたいと思います。

【会 長】

いかがでしょうか。

モモサポーター養成講座は実際にJAを通じて動いているという話が前回ありましたけれども、それ以外に何か具体的に動いているものがあるかどうかということなんですけど、事務局いかがでしょ

うか。

【事務局】

資料にありますステップ1のところのモモサポーター養成講座は既にJAさんでやられていて、そちらを受けた方が卒業生として、ステップ2のモモサポーター制度、そちらのほうも今JAさんでやられているという状況でございます。以上です。

【会長】

いかがでしょうか。

【蛭原委員】

ありがとうございます。

質問としては、我々の青年会議所は来年度事業構想を今やっている段階ですが、この食品ロス、そして小牧に愛着を持ってもらうというところで、この桃を使って、プロジェクトに書いていただいている飲食店や事業主とか、そういったところと連携を取って事業を考えていく段階でして、学生の連携も今は視野に入れて事業を構築していこうと思っていました。

SDGsのパートナーシップの部分とかも考えて、何か一緒に手を取って事業などができたらなと思いましたが、今後、御相談させてもらい、御協力いただけたところがあれば一緒に活動できればなというところで質問させていただきました。ありがとうございました。

【会長】

やはり発展の可能性というのは、先ほど古池委員からも食育とも十分関係するだろうし、オーナー制度みたいな話もございました。

先ほど小柳委員が、自分のお土産物としては、自分の住んでいる地域のものをよその地域に贈答品として送れるという、そういうお土産物があるというのも非常に地域としては大事で、そういうふうな発展の仕方が進められると、とても魅力的だと思います。

それと、もう一つは、やはり東部地域にある事業者、産業があるので、その辺りはかなり積極的に加工をして新たな商品開発をしていけるような、農家で加工まで、それは結構大変なんで、事業者として加工できるような事業者が参入いただけたら、さらに商品開発につながっていく、そんな広がりがあるプロジェクトで、わくわくするような発展形が考えられるんじゃないかと思います。

ほかいかがでしょうかね、4つプロジェクトを出していただいておりますので。

ほかいかがでしょう。

小柳委員、どうぞ。

【小柳委員】

名古屋コーチンの関係ですが、商工会議所さんやら、あるいは飲食関係の方々がそれぞれの腕を振るって料理したり、PRしたりしてくださっているんですけども、発祥の地域というのがあって、そこには碑が立っているんです。そこには以前にも申し上げましたように、その碑には海部壮平さんの兄弟がやった大体的見取り図も書いてあるんです。

しかし、そこに訪れる人はほとんどないのが実情です。

「ここは発祥の土地だよ」ということをもう少しPRするような体制が整わないかなあというふうに今常々思っています。

小牧駅には名古屋コーチンの銅像がありますけど、そこは発祥の地じゃないです。

ですから、そこら辺にも発祥の本来の土地はここだよという説明書もざっと、よそから訪れた人がそこまで足を伸ばすというようなこともできないかというような思いがしています。それが1点です。

それから、資料等に記載のないことですが、坪井委員も関係していらっしゃるんですが、11月1日に小牧ハイウェイオアシスの地鎮祭が執り行われました。

民間の開発でできるものですが、開発許可は小牧市が出したわけです。この辺りが完成をすると周辺はかなり変わってくるのではないかというふうに思います。その辺をどういうふうに東部のまちづくりの中に組み込んでいくのかいかないのか、その辺の考えを行政側にお聞きしたいです。

【会 長】

ありがとうございます。

坪井委員、何か補足ございませんでしょうか。

【坪井委員】

小牧ハイウェイオアシスというのが小牧の東部地域の発展に大いに寄与するだろうと期待しています。例えば新しい雇用として900人程度の雇用が生まれる。それから年間の来場者数がざっと500万人、それから市民四季の森の隣ということで場所が非常にいいんですけども、スポーツ施設としてオリンピックで種目になったボルダリングだとかスケートボードだとか、人気が出だした新しいスポーツ、そういう大きな施設をつくるという予定です。ここの中で訪れたいくなるというようなキーワードがありますが、このハイウェイオアシスには若い方がお越しいただけるんじゃないだろうかという期待をしています。

また、桃の話も出ていますが、桃だけじゃなくて野菜も含めて農産物の産直とか、そんなようなこともできるようにしていく予定です。したがって、非常に期待しているんですが、小牧市から10月にやっと開発許可をいただいて、いよいよ取りかかる状況です。

2023年の後半、ちょうど今ぐらいの時期だろうと思いますが、そこで開業ということになる予定です。

それで、今日冒頭、横山先生が、そういう民間企業も含めて行政からいろいろと支援をすると。立場的には一つの民間企業なので、そこに御支援という言い方はなかなか言いにくいところがありますが、でもそういう相乗効果があるのであれば、何とか市からもいろいろと御支援いただきたいなというふうに考えております。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。

いかがでしょう、大分意見も出てきました。落合委員、どうぞ。

【落合委員】

今、名古屋コーチンの話が出ていましたので、これは海部さんの墓地が池之内の大泉寺にありま

す。資料の4の38ページに、桃のこまきゴールドは「上末」と書いてありますけれども、名古屋コーチンのほうは「小牧市は」と書いてあるので、全体でやっぱり地名が特定されないので、ここへ「池之内」と、要望ですけれども入れてもらえればありがたいなと思います。かなりいろんなものが残っていますので、海部さんというのは前総理大臣をやってみえた海部さんのおじいさんぐらいに当たりますので、大分宣伝はできると思いますよ。地元では歌をつくったりしてPRしています。

【会 長】

なるほど、分かりました。ありがとうございます。

一度この辺りで事務局、いかがでしょう。やはりこの東部地域のトリガーとなるようなプロジェクトとして、一つはハイウェイオアシスが近々開園すると。もう一つは、この会議でも一度御紹介された農業公園についての展開もありそうだと。さらに名古屋コーチンというのは発祥の地で、その辺りの可能性があるんじゃないかという3つぐらいこれに関連して御意見をいただいていますけれども、事務局何かいかがでしょうか。御答弁ございますでしょうか、いかがでしょう。

【事務局】

いろいろ意見をいただきまして、ありがとうございます。今、農業公園だとか名古屋コーチン、オアシス関係のお話が出てきて、要は東部地域に新たなまた資源ができるという、新たな資源と既にある名古屋コーチンなどの資源を利用して、住民主体のまちづくりが進められないか、そんなところに可能性があるのではないかと考えています。

今後、ワークショップとかいろんなことで地域の人達と一緒に進めていきたいと思っております。以上です。

【会 長】

特にこのプロジェクトのほうは、どちらかという市民中心的なプロジェクトが4つあるんですけど、せっかくですので、東部地域の中で輪郭といいますか、産業を視野にオアシスだとか、工業団地だとか、あるいは今の名古屋コーチンの生産現場へとか、少し産業を視野に入れた、要するに目に見えるリーディングプロジェクトみたいなやつをお考えいただけるようなことは可能でしょうか。多分いろんなところで、商工会議所からも御発言があったりとか、あるいは青年会議所からも御意見をいただいたりして、やはりそういうところの活力というんですかね、可能性というのを御提示いただいておりますので、その辺についていかがでしょうかね。

【事務局】

一度関係の方々と、お話を聞いたりして、進められる部分があれば、今回になるか次年度以降か分かりませんが、そういったことでいろいろ考えていきたいと思っております。

【会 長】

そうですね。何か単にアクションプランとして書き込むだけではなくて、ひょっとしたら、やはり目に見えるような形でリーディングプロジェクトみたいな位置づけになるとありがたいかなあと。

もう一つは、この桃のところも、桃でつながるプロジェクトというのでいいんですけど、農業と

の関連でいうとブドウもあるし、先ほど言った名古屋コーチンもあるので、ひょっとしたら農でつながるプロジェクト「桃」みたいな、農というほうが、ひょっとしたら広がりがあるかもしれない。その辺も少しお考えをいただけ、御検討いただければと思います。

ほか何かいかがでしょうか。

【村上委員】

この構想について、良いと思いますが、リーディングプロジェクトにはインフラ整備というのは付け加えないものですか。私たち市民は、この構想自体は大変立派にできて良いと思いますが、実際問題、市民は行政が何をしてくれるのかというのが一番大事なポイントです。公共事業として何をしてもらえるのかというのを期待したいところです。構想のようなスピード、進捗度では、いつまでたっても良くなならない、達成は永久に不可能じゃないとか、ちょっと言い方はひどいかもしれませんが、そんな気がします。構想だけつくって終わってしまうような気がします。

例えば、思うには、今、スマートインターが、開発許可が出たということで、かなり前進したということです。桃花台の都市計画道路というのはかなり整備されていますが、付近の道路というのは、この前の会議でもありましたように、全然整備されていなくて、端部はふん詰まり状態。現在、大草地区と池之内外を通過していかれる方の車で大渋滞する状況です。それを我々は解消して欲しいと切に思っております。

例ですが、今、名古屋市の志段味地区は、スマートインターから、高蔵寺の対岸まで立派な道路が整備され、すばらしい都市、大市街地になりました。ああいう整備をやっていただかないと、人も増えないし、産業もつながらないし、農業も結果として反映しないと思っております。

だから、道路網の整備を一番個人としてはお願いしたいと思っております。何かそういうインフラ整備を盛り込んで頂き、目に見える形でやってもらいたと思っております。

【会 長】

ありがとうございます。

先ほども、前回も少しそういう御指摘が、御意見があったかと思えますけれども、これは結構巨大な予算との関係もありますので、どこぐらいまで書けるのかとかいうことがあろうかと思えます。何か事務局、御答弁ございますか。いかがでしょう。

【事務局】

今のお話なんですが、まずオアシスの関係のインターチェンジは、私の記憶ですと、決定ではなく、今調整中であるとお聞きをしております。施設が来るという関係の中で、地元からいただいているような歩道の整備とかということについては、今、道路課で進めているというような状況であります。

今、東部の構想にインフラという部分を書き込めないかということなんですけど、今の都市計画道路というものについては、当然、都市計画決定をされておる道路ということで、それがちょっと進んでいないということで大変申し訳ないんですが、愛知県とかに要望等もさせていただいて今進んでいるものだという状況でございます。

新たな道路網については、私の記憶では今のところないというふうに思っておりますので、要望等いただいたものについては予算をつけて順次やっているというような状況ですので、なかなかそ

れを具体的に、この東部の構想の中に入れていくというのは、ちょっと難しいかなというふうには考えております。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。

東部地域の都市計画道路の未整備区間というのは、結構残されているのでしょうか。

【事務局】

具体的な数字は持ち合わせておりませんが、やはり用地買収などを要因に事業が進んでいない箇所もあるというような状況ではあります。

【会 長】

御指摘をいただいておりますので、項目としても都市インフラのところが掲げられていますから、都市計画道路の進捗も含めて、どんなレベルで少し触れることができるかというのは、一度検討いただければと思いますけれども。

【事務局】

分かりました。

【会 長】

ほかいかがでしょうか。

【中川委員】

今の道路網に似通っている部分があるかも分かりませんが、私は東部地域の中の特に東部に居住しています。ここでの悩みを少し聞いていただければなと思います。

先ほどからあります空き家問題とかということもございますが、私どもにおきましては、それ以外で空き地問題、これが自治会では、また個人的にはどうしようもできない部分であります。

現状を申し上げますと、雑種地、雑種地におきましては、ヤード、リサイクル、破砕などの処理施設の開発が進んでおります。

また、彼らは、大変あれなんですけど、お金を持っております。買いますよ、買いますよ、積極的にアプローチまで入っております。したがって、親から受け継いだ、しかも畑もやる予定はない、売ってしまおうかというふうなことが言われますと、後に残るのは、このリサイクル地なんです。近隣の住民としましても、緑豊かというふうなことがありましたが、今じゃ、航空写真でも見ていただいたら分かりますように、全く景観が変わってきております。特に私どもの大草地区なんですけれども、神屋味美線、この線はダンプ街道に変わってしまいました。ですから、ここの通学する子供たち、やはり非常に危険な通学路に変わってきているような気がいたします。

こういった中で何を申し上げたいかと申し上げますと、土地の開発計画、あるいは制約、こういったものをひとつ行政のほうでお願いできればなあとというふうに思います。

【会 長】

ありがとうございます。

いずれも、なかなか行政にすぐに答えを出すというような状況下にはないんかもしれませんが、何か御答弁ございますか、事務局。

また、この審議会は、いろんな意味で要望会議の場じゃありませんので、むしろ我々、みんなでどういうふうな形で少しでもよくなっていくのかという行動計画を立案していこうというような場です。その辺に力点を置きたいと思うのですが、やはり地域課題というのもきっちり認識しておく必要性があるかと思いますので、何か事務局、御答弁ございますか。いかがでしょう。

【事務局】

開発ですとか規制というところのお話がありましたが、そちらのほうは、なかなか難しいところですね。もともと市街化調整区域というところで、開発ができないような区域でもございます。

また規制ということも難しいところではありますが、今は要望としてお受けするような形になるのかなとは思っております。以上です。

【会 長】

地域課題をきっちり共有しておくという話だとか、あるいは現状編のところでも、少し地域にどういった課題があるかという辺りは、きっちり共通認識しておくというような辺りは結構重要です。すぐに何か施策展開できるかという話はなくてもいいと思います。課題認識はきっちり地域でしておくことは大事やと思います。その辺の少し書き込み方みたいな話は、少し事務局のほうで御検討いただければと思います。

【事務局】

分かりました。一度検討のほうをさせていただきます。

【会 長】

よろしいでしょうかね。

原委員、御発言をどうぞ。

【原委員】

1つ、これも提案になるかと思うんですけども、今、市役所の中の行政組織で、特定のエリアだけを対象にした部署というのは、これを主催しております東部まちづくり推進室だけなんです。あえてこの東部地域だけが特定の部署をつくったかといえば、これは取りも直さず、それだけ新しくまだまだやり切れていないことがいっぱいある地域、そういう認識が行政にあるところなんです。僕は、それは全く正解だと思うんですが、そこまでやるのであれば、あるいはやってきたのであれば、もっと現地を生で日々見られる体制を、あるいはそこからいろんな案とか答えを出すような仕組みを僕はつくったほうがいいと思います。

その一つは、今、本庁にある推進室の分室を東部支所の中に設けていく。そのうちの何人かは、絶えず東部支所のデスクで、あるいは現地に出向いて現状を把握。僕はそれをやらないと、本当に生の東部の現状、あるいは課題というのが本庁でつかみ切れるのかという気がいたします。

したがって、一つの手として、推進室の分室を東部の行政の中にひとつ組み込んでもらいたい。これは住民への、行政からアピールになると思うので、1つ提案させていただきます。

【会 長】

これも御答弁いただくよりも、少しのみ込んでいただいて、ご検討いただいたらいいかと思いません、事務局のほうですね。

私の今いる泉北ニュータウンも、NEWデザイン室というのが、これ2転、3転しているんです。現場へ行くと、ニュータウンの中でつくった時期もあるし、またそれを市長公室へ戻して堺東の本庁に持ってきたこともあるし、また分室と本室を分けて配置したりとか、試行錯誤されているというような実態です、どれが一番うまい方法なのかというのは。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

【三木委員】

資料4、一番最後のページのK P I の参考指標、その一番下のヴィジョン3の住まいのところなんですけれども、戸建て住宅の空き家数というのを一つ入れているんですけれども、分譲マンションの空き部屋もこれから問題になると思います。とても大事なことなので、できれば入れていただきたいなあと思います。

それから、桃花台は、民間賃貸が少ないエリアなんですけど、賃貸では公団とかURが多いんです。公団やURに入っていらっしゃる方が、次のステップで空き家を購入して新築とかリノベとかということのほうが自然の流れなんです。

そうすると、空き家がどう埋まっていくかということを見ていくことは、とても大事なものは、賃貸の空き家率がどれくらい少なくなっているか。そこが満室に近ければ、確実に空き家を購入しようとする人は増えるということに成り得るんです。なので、ここもできたら調べていただけたらありがたいなと思います。

【会 長】

分かりました。ここについては空き家数が本当にいいのか、あるいはそれを流通させているということが非常に重要で、それを掲げるのがいいのか、あるいは共同住宅における空き部屋も指標の中に入れるべきか、その辺りについては少し事務局のほうで次回までに御検討いただければと思います。

やはり若い人たちに入ってもらおうとか、今、ここに住み続けようと思ったら、住宅の在り方というのは非常に重要です。その辺りの指標をぜひとも検討いただければと思います。よろしいでしょうかね。

ほかいかがでしょうか。大分時間も迫ってきたんですが、御発言いただいている方で御発言ございますでしょうか。

例えば、指名して申し訳ないですけど、渡邊さん、あるいは柴田さんで、あるいは藤村さん、何かありましたらいかがでしょうか。

【渡邊委員】

難しいことはよく分からないのですが、私も村上さんが言われたことと同様に、取組方針が多いので、

東部地域の住民へアンケートを採って、一番やってほしい声の多い順に1つずつ具体化し、実現していったあげることが一番喜ばれると思います。

【会 長】

ありがとうございます。御提言ということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。
ほかいかがでしょうか。

柴田さん、もしくは藤村さん、何かございますか。特にございませんでしょうか。いかがでしょう。

【藤村委員】

この会に何回か参加させていただいている中で、少し分からなくなっているのが、結局、東部地域の魅力を発信する方向に進んでいるのは分かるんですけど、住み続けたいとか、ここに住みたいと思うような方向の案というのがあまり感じられないような気がしています。今日も新しくいろいろ案、ここに訪れる人は増えるなというような期待感を持つような話ってたくさん聞いたんですけども、実際にこの資料5にある取組方針とかプロジェクトのひもづけを、ひもづけはされているんですけど、実際このひもづけが合っているのか、全部ひもづけなきや駄目だから、ひもづいているんじゃないかと思うような線もある気がしますし、住みたいと思うようなプランというのが、ヴィジョン3-②やら①の何というものに関して改善していける、ひもづいてはいるけれども、じゃあこうすれば改善するんじゃないかという案はあまり出ていないような気がするの、魅力を持てれば住んでくれる人が増えるというのはちょっと違うんじゃないかなと、前々から疑問に思っていることなんです。今日もそういうふうに感じました。

【会 長】

いかがでしょうかね。特に43ページの施策展開でいくと、3番に訪れたいくなる、住みたいなる魅力の創造という中で、住まいのところ、若年世帯も住みたいなる住まいの創出みたいなやつがうたわれていますけれども、この辺の住宅政策というんですか、先ほど三木さんからも御指摘がございましたけれども、この辺について何か事務局、お考えはございますでしょうか。いかがでしょうか。

若干その辺りが弱いんじゃないかという話が御指摘されていますけど。この段階で、このレベルで少し修正をかけるのか、あるいはアクションプランの中で具体的な展開論みたいなやつは込めるのか、その辺りも含めてですけども、いかがでしょうか。

一度預かっていただくということでよろしいでしょうか。いかがでしょう。

【事務局】

いろいろ今、御意見をいただきましたので、内容については検討していきたいと考えております。

【会 長】

ありがとうございます。

あと、柴田委員いかがですか。何かございますでしょうか。

【柴田委員】

ヴィジョンで訪れたいくなる、住みたいくなる魅力と書かれているんですが、確かに訪れたいくなる魅力は、資料や意見にも上がっているんで、私もそのほうがいいなと思いますが、だからといって住みたいくなるかといったら、そうではないと思います。若い世代が住みたいくなる住まいと書かれているので、もっと10代、20代の方の意見をたくさん取り入れた形になると、今後また小牧市の未来、この掲げているまちの将来像につながるのかなあと思いました。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。

ほぼ同様な御指摘ということですので、その辺りは少し事務局のほうで御検討いただくというように、よろしくお願ひしたいと思います。

また、もう一つは、やはり住みたいくなるというのは、ある意味ここにあるように、ここで今、事と物の関係性でいくと、事が優先して物につながっていくような話で、何らかの自分がまちに関わるいろんなプロジェクトとかイベントとかがあつて関わることによって、やっぱり愛着やとか住み続けたいとかいうところにつながっていくので、必ずしもハード整備だけが重要かという、そうではなくて、やはり事をどう起こしていくかとか、それをどう発展させていくかということも非常に重要だということは皆さん共通認識しておいていただければと思います。事務局のほうで少しその辺、御検討いただければと思います。

ありがとうございます。大体皆さん方から一通り意見をいただいたかと思いますが、深堀さん、まだでしたっけ。

【深堀委員】

私のほうでちょっと気にかかっているのが、高齢者に対する配慮なんですけど、実を言うと今、桃花台は、まち自体が他県からの寄せ集めということで、子供たちが出ていくと高齢者だけが残るような変なまちになっていくんです。今、老人施設とかそういうのが不足してしまつて、入居希望者が自宅待機とか、そういう実態も発生しているんです。これからそういう人が増えてくるということで、私はそこもちょっと、東部地域として云々というよりも、ニュータウン自体の高齢化に対する対策として何か考えたらいんじゃないかなと。今は個人のホームとかそういうものでやっているんですけれども、やっぱり個人のホームでは限界があります。そういうところをもうちょっと市のほうで把握して、できれば市の施設として準備できるものがあつたら準備していただくと、もう一つの住みよい社会にもつながるのかなと私は思っています。

【会 長】

なるほど、分かりました。

多分1番の辺りの、暮らし続けられるという辺りが、一体どう保証されていくのかということのも非常に重要な、新しい人をどう呼び込むのかということのも大事ですけども、今住まわれている方が、やはり住み続けられるということも非常に重要ですので、少しその辺りも御協議をいただきながら御検討いただければと思います。ありがとうございます。

大塚先生、いかがでしょうかね。

【大塚委員】

皆さんのいろいろなお話を伺っていて感じたことですが、最初のほうに企業との連携というのが重要だということで、企業立地であるとか、産業というものをもう少しクローズアップをとというような御意見もあったと思います。確かにそうだと思いますし、人が住む、住みたくなる、住めるためには、やはり働く場所がないといけない。産業基盤というものが身近にあることによって職住近接のまちができていく。そういう職住近接のまちができると、まちづくりに参画してくれる人の可能性も広がっていくのではないかと思います。産業の面では、この計画は「新しいビジネスの創出」というのを取組方針として掲げているので、私はこれが大変重要ではないかなと思っています。そうした新しいビジネスの創出が多様な働き方のできる環境をつくり出すというところにもつながっていくのではないかと思います。

そうすると、若い人たちも住みたいと思えるまちになっていく、そんなつながりがあるのではないかと思います。そういうことと、あと企業との連携でもう一点、企業が産業という面ではなく、企業市民として地域にいかに関与していくのかということで、企業と連携しながら、企業の手助けをいただきながら、その地域のまちづくりを進めていくというような、そういうことが重要になっているのではないかと思います。

それと、かなりたくさん様々な取組が提案されているわけですが、結果的にこれが全てできれば、すごく訪れる人も増えるだろうし、あるいは高齢者にとっても住みやすいまちになり、そうしたまちというのは若い人たちにも住みたくなるまちになっていくだろうというふうなことは思いました。

あと桃プロジェクトについて話がありましたが、これはかなり広がっていく、広げていける可能性を秘めているプロジェクトではないかと思います。

最後に、今、皆さんのお話に出てきたことで、ちょっと気になったことがあります。それは、「行政は何をしてくれるのか」という話です。住民が行政を動かすということは、まちづくりを進めていくためには必要不可欠になってくると思います。しかし、行政にただやってくれと言っても、なかなかやってもらえないというのは、皆さん今まで経験されてきていると思います。行政を動かすためには、まず民間が地道な活動を継続して行っていくことが重要だと思います。市民がこれだけ活動しているのだから、行政としてもそれを支援していかなければならないというような、何かそういう雰囲気というか、そういうものをつくっていくことが重要なのではないかと思います。

【会 長】

ありがとうございます。

大体時間かと思うんですけど、今後のこれの進め方ですけど、大分、今年度内に基本的に構想を取りまとめるということからいくと、次回の12月に予定されますところと、あとパブコメみたいな形みたいなスケジュールとか、ちょっと今後の着地点に向かってどんなスケジュールで、どれぐらい議論する機会があるのかという辺りを少し御紹介いただけるとありがたいと思うんですけども、いかがでしょうか。

【事務局】

その他のところでお話ししようと思っておりましたが、次回につきましては、第5回の審議会といたしまして、12月24日の金曜日午後1時半から、場所がこちらの601会議室で予定しております。

今日いただきました素案に対する意見をまとめ、修正したものをお出しして、また御意見をいた

だきまして、その後、パブリックコメントということで1月中旬から2月中旬ぐらいでできればなと今予定しているところでございます。以上です。

【会 長】

パブリックコメントが終わって、最後の会か何かアクションプランが御提示いただけるというふうな理解でよろしいでしょうか。それとも12月に少し出てくるんですか。いかがでしょう。

【事務局】

アクションプランにつきましては、また予算のことも一部絡んでくるところもありますので、パブリックコメントが終わってからご提示できたらと考えておるところもあります。

【会 長】

なるほど、分かりました。

アクションプランは、取りあえずといいますか、この場に一度は御報告いただいて、意見交換をできるという機会はあるという認識でよろしいですね。

【事務局】

はい、そうです。

【会 長】

分かりました。

そういうスケジュールだということになっておりますので、次回の12月は、これ今日は素案というふうになっていると思うんですけども、パブコメの原案の案として12月に一度取りまとめて、それでパブコメをかけて、その後、パブコメの意見をいただいての改定と、それと要するに構想案の取りまとめ、それからある意味少しアクションプランについて御紹介いただけるという、こんな段取りで年度末を迎えるのかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

今日少し具体的な取組方法についてという辺りで何点か御議論いただいておりますし、盛り込める、あるいは取り組めるようなアイデアも、中に取り込める話もあるでしょうし、取り込めない場合でも、やはり少し地域の課題として共通認識をしておくということも非常に重要なことだと思いますので、その辺りも含めて少し12月に御報告をいただければと思います。よろしいでしょうか、事務局のほうは。

ありがとうございます。

一応、私のほうでいただいております議題は大体終わったかと思うんですけど、横山委員、リモートで参加いただいておりますけれども、よろしいでしょうか。

【横山委員】

結構でございます。

【会 長】

分かりました。

皆さん方もよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、活発な御意見、あるいは具体的なアイデアに至るまで御議論いただきまして、ありがとうございました。

今日はこれで一応終了したいと思います。どうも御協力ありがとうございました。

【原委員】

1つ事務局のほうにお願いなんですけれども、今日は最初から東部地域のいろんな果物の話や、農家の話が出ました。これは私も実際東部に住んでいて日々見る中で、それは承知しているんですが、じゃあ一体どのぐらいの生産農家があるのか、あるいはどのぐらいの生産量があるのか、量と規模、そこらの農家の実態というもの、なかなか外から見えないんで、またそういう資料もなかなか触れる機会がないので、できたらその辺を持ってきてもらおうと、全体の産業の中で、あるいは東部の中の位置づけというのはできるのかなと思ひまして、ぜひその資料づくりをお願いしたいなと思ひます。

【会 長】

まずは現状認識のところ、少し東部地域全体の農業とか、産業というようなやつデータとして整理いただいており、報告もいただいていると思ひますので、案の中にどんな形で現状編を盛り込むのかという辺りは御検討いただければというふうに思ひます。よろしくお願ひしたいと思ひます。

【秦野委員】

住み続けられるというキーワードがすごく大事なんじゃないかなということ結構後半になって思っただけなんですけれども、先ほどから法令だとか、規制だとか、規制しなきゃいけない部分だとか、規制を緩和しなきゃいけない部分だとか、結構行政の施策というか、やり方で大きく、これをやるかやらないかで大きく住民の生活が変わるんじゃないかと思うんです。そういった法令に関する部分をこの構想の中の基盤のところ、基盤の整備のところ、入れておかれると、ほかの事業も進むようになるんじゃないのかなという気がしましたので、一言だけ意見させていただきました。

【会 長】

行政の役割というのは非常に大きな役割があるというのは、今回のコロナを見ても分かりますし、ある意味、まちづくりをしていく中でも必要なことですので、今の御発言も含めて御検討いただければというふうに思ひます。ありがとうございます。

よろしいでしょうかね。

それでは、事務局のほうにお返ししたいと思います。

【事務局】

委員の皆様、本日はお忙しい中、長時間にわたり御議論いただきまして、ありがとうございました。

なお、本日の会議の会議録につきましては、作成次第、委員の皆さんに送付をさせていただきまして、内容の確認をしていただきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして第4回小牧市東部まちづくり審議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。